

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-166841

(43)Date of publication of application : 20.06.2000

(51)Int.Cl.

A47L 13/18

(21)Application number : 10-347175

(71)Applicant : TORAY IND INC

(22)Date of filing : 07.12.1998

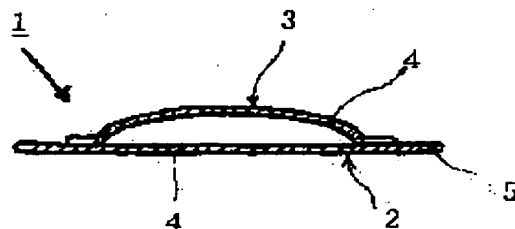
(72)Inventor : YABUSAKI SHOJI

(54) BAG-SHAPED CLEANING DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To clear dust off and polish furniture or furnishings without using a detergent by forming the back and palm sides of a bag-shaped body into which a hand can be inserted of a fabric, made of extra fine fiber filaments and providing strip-shaped small pieces on the periphery.

SOLUTION: This bag-shaped cleaning device 1 is formed by constituting a back side 2 and/or a palm side 3 of the bag-shaped body of a fabric 4 made up of extra fine fiber filaments, and strip-shaped small pieces 5 are attached to the edge thereof and take on a round form here. The bag-shaped cleaning device 1 is protected against having an odor stuck or growth of bacteria by subjecting it to bacteriostatic or antibacterial treatment and kept clean. Although detergents may be used even without particularly using a detergent, it exhibits intended wiping, cleaning and polishing effects, and effectively cleans persistent stain by impregnating with a small amount of water and a decline in its wiping performance can be restored by washing it, enabling it to be used repeatedly.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-166841
(P2000-166841A)

(43) 公開日 平成12年6月20日 (2000.6.20)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 L 13/18

識別記号

F I

A 4 7 L 13/18

テマコード (参考)

3 B 0 7 4

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-347175

(22) 出願日 平成10年12月7日 (1998.12.7)

(71) 出願人 000003159

東レ株式会社

東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号

(72) 発明者 藪崎 祥司

東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号東

レ株式会社東京事業場内

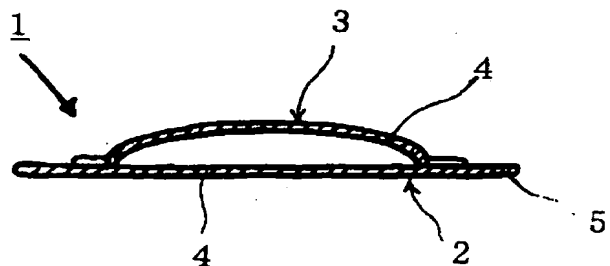
Fターム (参考) 3B074 AA07 AB01 AC00 DD01 DD02
DD03

(54) 【発明の名称】 袋状清掃具

(57) 【要約】

【課題】 家具類の複雑な形状や細かな部分も清掃でき、清掃作業を容易かつ確実にこなうことができるとともに、特に洗剤を用いることなく家具類や調度品類の塵や埃を快適に払拭し磨き上げることができる袋状清掃具を提供することにある。

【解決手段】 手を挿入できる袋状物本体の甲側および／または掌側を極細繊維からなる織編物で構成し、その袋状物の周縁に短冊状の小片を設けてなる袋状清掃具で、袋状物本体の甲側と掌側をともに極細繊維からなる織編物とすることができ、また、短冊状の小片を袋状物本体と同じ極細繊維からなる織編物で構成することもできる。



形状の家具類や調度品類およびそれらの内部の清掃に好適に用いられる。

【0012】以下、本発明をさらに詳しく説明する。

【0013】

【発明の実施の形態】本発明の袋状清掃具は、袋状物本体の甲側および／または掌側を極細繊維からなる織編物で構成すると共に、その袋状物の周縁に、短冊状の小片を設けてなることを特徴とする袋状清掃具であり、袋状物の一方向から手を挿入して袋状清掃具として用いられる。

【0014】本発明の織編物を構成する極細繊維糸条は、分割型複合繊維もしくは海島型複合繊維から作ることができる。例えば、ポリエステルを複合繊維の一成分とした2以上の成分からなるポリエステル複合繊維が用いられる。ポリエステル複合繊維としては、少なくとも2以上、好ましくは4以上、より好ましくは5または6以上に分離可能な剥離型繊維や割繊型繊維などの分割型複合繊維、または2～100のように複数の島成分を含有する海島型複合繊維が好適である。

【0015】このような複合繊維の好ましい単繊維繊度は1～10デニールで、より好ましくは3～6デニールであり、また、分割型複合繊維の分割後の単繊維繊度および海島型複合繊維の海成分を除去した後の島成分の単繊維繊度は0.001～1.0デニールが好ましく、より好ましくは0.01～0.5デニールである。複合繊維糸条は製編後、物理的もしくは化学的処理により、極細繊維化される。

【0016】このようにして得られた極細繊維は、3～5角形のような異形断面形状であることが、払拭性と磨き性を得る上で好ましい。

【0017】本発明で用いられる極細繊維糸条のトータル繊度は、好ましくは50～400デニールである。また、極細繊維糸条の糸構造は、通常の撚糸構造でもいいが、できればスラブ糸、シックアンドシン糸、太繊度糸、エア－交絡糸、加工糸など凹凸感のある構造の糸条であることが、払拭性と磨き性を得る上で好ましい。特に、仮より撚縮等撚縮が付与された加工糸が好ましく、さらに無数のスナール状の撚縮が突出し、そのスナール状の撚縮が交絡にして固定されているフィラメント繊維糸条が望ましい。

【0018】本発明の織編物においては、極細繊維糸条をそれ自体単独で用いることができる他、他の糸条と併用して用いることもできる。例えば、ポリエステル繊維と他の繊維からなる混繊糸であってもよい。このような糸条の例として、例えば、ポリエステル繊維を鞘側に配置し、高収縮性の他のポリエステル繊維を芯側に配置した芯鞘型複合糸が挙げられる。

【0019】本発明の織編物は、これら極細繊維糸条からなる織編物である。織物の場合、ボイル、マットウス、ジャガードなど、凹凸のある織組織が好ましい。ま

た、編物としては、ジャガード、パイル編などの凹凸のある組織が好ましい。凹凸のある組織とすることで、払拭性と清掃性、磨き性が向上する。また、織編物として、極細繊維糸条からなる嵩高高密度織編物をもちいることができる。嵩高高密度とすることによって、払拭性、清掃性、磨き性が向上する。

【0020】本発明の織編物は、好適には極細繊維糸条100%で構成されるが、本発明の効果を妨げない範囲で、他のポリエステル繊維やポリアミド繊維等の合成繊維糸条あるいは天然繊維糸を混交し、あるいは交編織することができる。

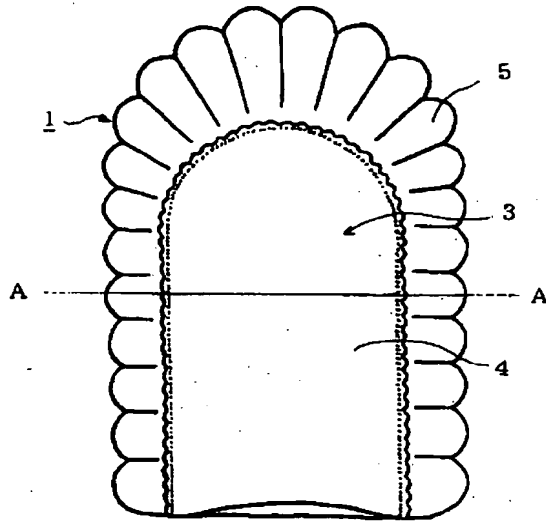
【0021】織編物は、ウオーターパンチした織編物であってもよい。ウオーターパンチによって繊維の交絡度が増し、払拭性能と共に払拭等に対する耐久性が向上する。

【0022】本発明の袋状清掃具には、袋状物の外縁に、短冊状の小片が設けられている。この短冊状の小片は、袋状物本体の手挿入口を除く外縁部に、短冊状で多数突出しており、手挿入口から袋状物に手を入れ、それを上下・左右に揺動することによって、複数の小片がハタキのような除塵効果を果たす。そのため、かかる小片はハタキ状にある程度の長さが必要で、通常1～15cm程度の長さ、より好ましくは3～10cmの長さの小片が効果的である。短冊状の小片は、それらの長さが同じでも異なってもよい。例えば、ミトン状の袋状物の外周に、ミトンの形状に合わせ同じ長さの小片を突出させることができる。また、2枚の極細繊維の織編物を重ね合わせ、その縁を一定幅で残してミトン状に丸みを持たせて縫製し、外縁部を適宜幅で中心方向に切れ目を入れることによりハタキ状小片を形成することができる。短冊状の小片は不定形であってもよく、例えば袋状清掃具の先端部分の小片を他部分より長く大きくすることができる。

【0023】このような観点から、本発明の好ましい袋状清掃具は、袋状物本体と短冊状の小片を同一素材、すなわち極細繊維からなる同一の織編物で構成する。このような袋状清掃具は、例えば、極細繊維からなる少なくとも2枚の織編物が積層され、織編物の手挿入口を除く周縁部に所定幅の外縁部を残して織編物を袋状とし、その外縁部に袋状物の外側から中心方向に向かって多数の切り込みを入れて短冊状の小片を形成した袋状清掃具である。袋状にするには、織編物の外縁部の所定箇所を縫製、接着、融着等で一体化する。織編物を一体化する位置は、通常、外縁部に形成する短冊状の小片の長さより若干大きめの幅の位置である。

【0024】また、外縁部の切り込みはハサミ等ので裁断で簡単に形成することができ、その程度は任意であるが、好ましくは1～30mm程度、より好ましくは10～20mmの幅をもって複数突出させるように裁断する。短冊状の小片の数は、袋状物の大きさによって異な

【図1】



【図2】

